

活動報告

平成20年度 厚生連歯科衛生士会研修活動報告

村上総合病院、歯科；歯科衛生士

東海林知子

【平成20年6月15日（日）厚生連歯科衛生士春季研修会】

1. 特別講演

講師 新潟医療福祉大学看護学科健康機能発達看護学領域 丸山 敬子先生
「保健医療福祉に活かす音楽療法入門～音楽はこころとからだのサプリメント」
<講演内容>

音楽療法とは音楽のもつ生理的、心理的、社会的動きを用いて心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて音楽を意図的、計画的に使用することである。音楽の治療的力としてうつ病状態を癒したり、喘息患者の呼吸状態を改善したり、さまざまな病気、ストレスを抱えている方を対象に音楽を聴くことによりリラックス効果が現れるという心のケアの技法である。心を癒す曲は千差万別であり、自分が好むもの、選んだものももっとも癒しの曲になることから音楽はまさにこころとからだのサプリメントと言える。音楽療法が実際行われる場として、学校、個人、医療施設、福祉施設、在宅、行政などが挙げられるが、日本の音楽療法は発展途上であり保健、医療、福祉に取り込まれるのはまだまだであるということから私たちの医療の現場でももっとも音楽療法が身近なものとして活用することが今後の課題ではないかと思われる。歯科の分野でも、患者様の心のケアの一環として取り入れたいと思う。

2. 総会

- (1) 来年度の次期会長の選出について
- (2) 各病院の現状報告

【平成20年11月16日（日）厚生連歯科衛生士会秋季研修会】

1. 特別講演

講師 子田歯科医院 子田 晃一先生
「歯科衛生士の業務と今後の展開」
講演内容は以下のとおり

- (1) 歯科衛生士の現状
全国では86,939人、人口10万人あたり68.0人、新潟県は80人。
- (2) 歯科衛生士の養成機関
- (3) 歯科衛生士の業務範囲
- (4) 歯科衛生士の今後の展開
ア 専門化
認定歯科衛生士等
イ 福祉
社会福祉士、介護福祉士、ホームヘルパー、ケアマネージャー等
ウ 医療事務

2. 会員発表

(1) 研修会報告 第2回日本歯科衛生士学会学術大会

「歯周ポケットと咬合様式との関連性に関する臨床的検討、第1報 ガイドに関する評価」を聞いて
けいなん総合病院歯科衛生士 熊木 瑞穂
上越総合病院歯科衛生士 近藤奈美子

適切な咬合支持関係や咬合力は、歯周組織の生理的機能を維持するためには必要不可欠なものであるが、過度の咬合力や異常なベクトルは、一次性咬合性外傷、硬組織破壊、ならびに歯槽骨の吸収を惹起する要因となる。プラークコントロール・メンテナンスが良好でも局所的な骨吸収が認められる場合もあるので、歯周治療（歯周診査・プラークコントロール・スケーリング・ルートプレーニング）を行っていく上で、早期に咬合力も視野に入れていくことが必要だと思う。

(2) 「母親学級における口腔内意識調査について」

村上総合病院歯科衛生士 東海林知子

今回のアンケートでは、妊婦の歯周病と妊娠の関係や、口腔ケアの重要性に対する認識が低いことがわかった。また妊婦が歯周病にかかっていると低体重児出産（早産）になる可能性が大きい。妊娠が直接的に歯周病の原因になることはないが歯周病を悪化させる可能性があるため特に妊娠初期における予防や、

早期治療が大切であり、母親学級での指導が有効となってくる。今後の病院歯科における歯科衛生士の役割としては、診療室の中だけではなく、医科との連携を図り母親学級での指導を通して口腔ケアの重要性を知ってもらうことが必要とされ、ひいては患者数の増加につながるのではないと思われるため、このような点を念頭において日々の診療にあたっていきたいと思う。

2008/11/26 受付 (2008-11)